

2021年10月期 第1四半期連結決算の概要

2021年3月11日
株式会社トップカルチャー

(1) 総括

当社グループの2021年10月期第1四半期連結決算（2020年11月1日～2021年1月31日）は、以下の通りです。

- ・ 営業利益は、前年同期比**75.9%の増益**、**1億45百万円**（前年同期 82百万円）
- ・ 経常利益は、前年同期比**13.3%の増益**、**1億35百万円**（前年同期 1億19百万円）
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比**15.6%の増益**、**1億26百万円**（前年同期 1億9百万円）

- ・ 売上高は、前年同期比**97.5%(既存店100.8%)**、**76億40百万円**（前年同期 78億35百万円）

(2) 連結業績の要素別分析

売上高

主力である書籍ではコミックの売上が伸長し、発売タイトルが好調だったセルCDも売上が牽引しました。また、今後増大していくであろうテレワーク需要に対応するべく、2020年11月に蔦屋書店河渡店内においてコワーキングスペース「CROSS lounge+（プラス）」をオープンいたしました。一方で、昨年末から1月下旬にかけての記録的大雪により新潟地区及び東北地区の来店客数が減少したことが大きく影響し、蔦屋書店事業全体の売上高は前年同期比97.4%（既存店前年比100.8%）となりました。加えて、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響もあり、全店で営業時間の短縮を継続、関東地区の店舗を中心にさらに営業時間の短縮をしております。

営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

セルフレジの利用促進や店舗オペレーションの見直しにより業務の効率化が進み、結果人件費コストの削減が奏功し、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益とも前年同期比を上回る結果となりました。

(3) 2021年10月期の通期業績予想

1月の新型コロナウイルス感染症の第3波感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令もあり、依然厳しい経済環境が続いています。感染拡大防止に向けたワクチン接種も始まっておりますが、一方で変異ウイルスの感染者も全国で発生し、新たな感染拡大の危険性も出ており、当社が22店舗を展開する東京都、神奈川県、埼玉県、1都3県における緊急事態宣言は3月後半まで延長され、引き続き行動自粛期間も続くことから、当社事業への影響も少なからずあると考えております。これらのことから、2021年10月期の通期業績予想に関しましては、緊急事態宣言が解除され、合理的かつ適正な予測が可能となった時点で皆様にお知らせいたします。

以上

本文書に関するお問い合わせ先： 株式会社トップカルチャー 取締役財務部長CFO 吉田 勝一
〒950-2022 新潟市西区小針4-9-1 電話：025-232-0008